

令和7年度 授業評価アンケート通年集計結果（専門学校浜松医療学院）

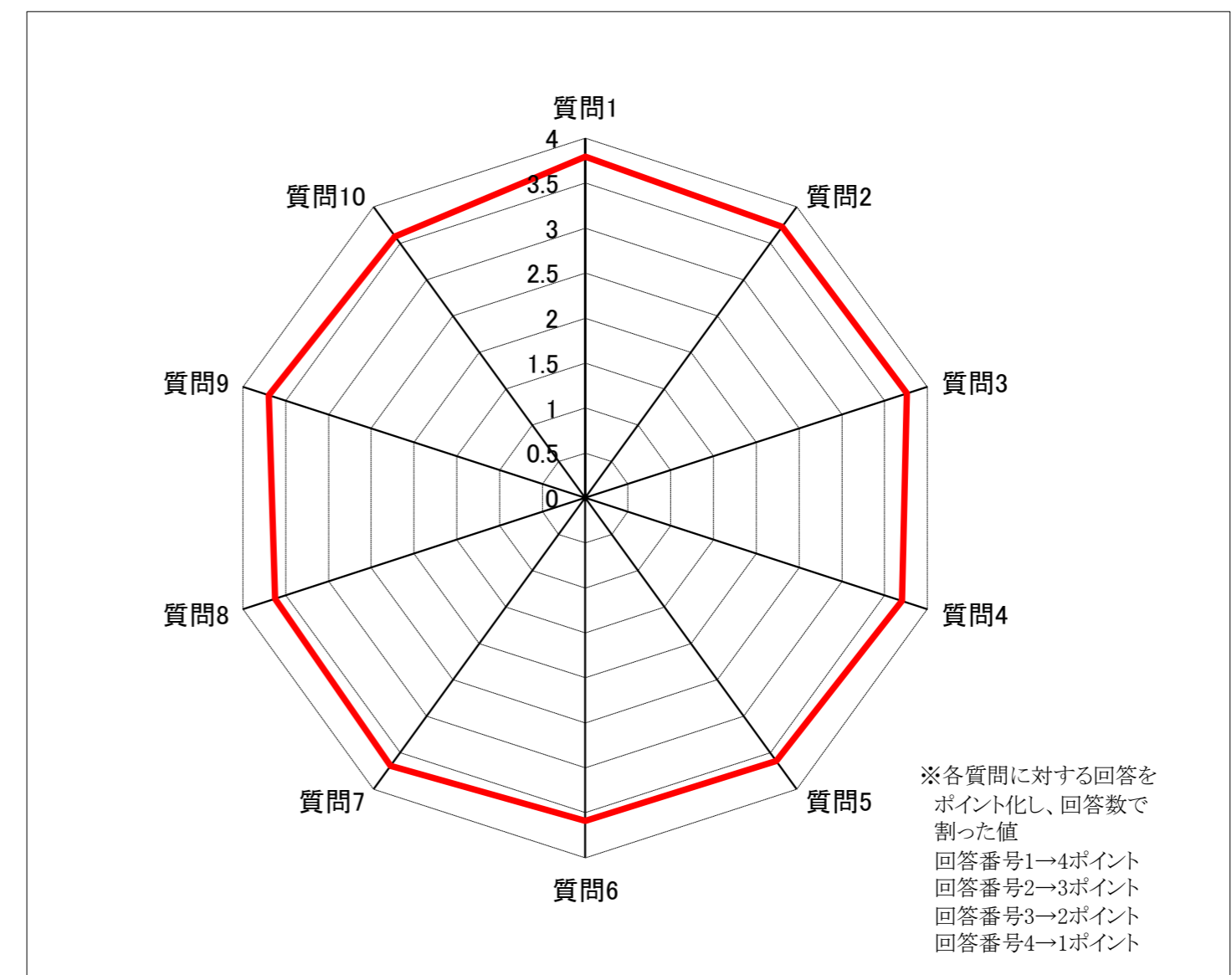
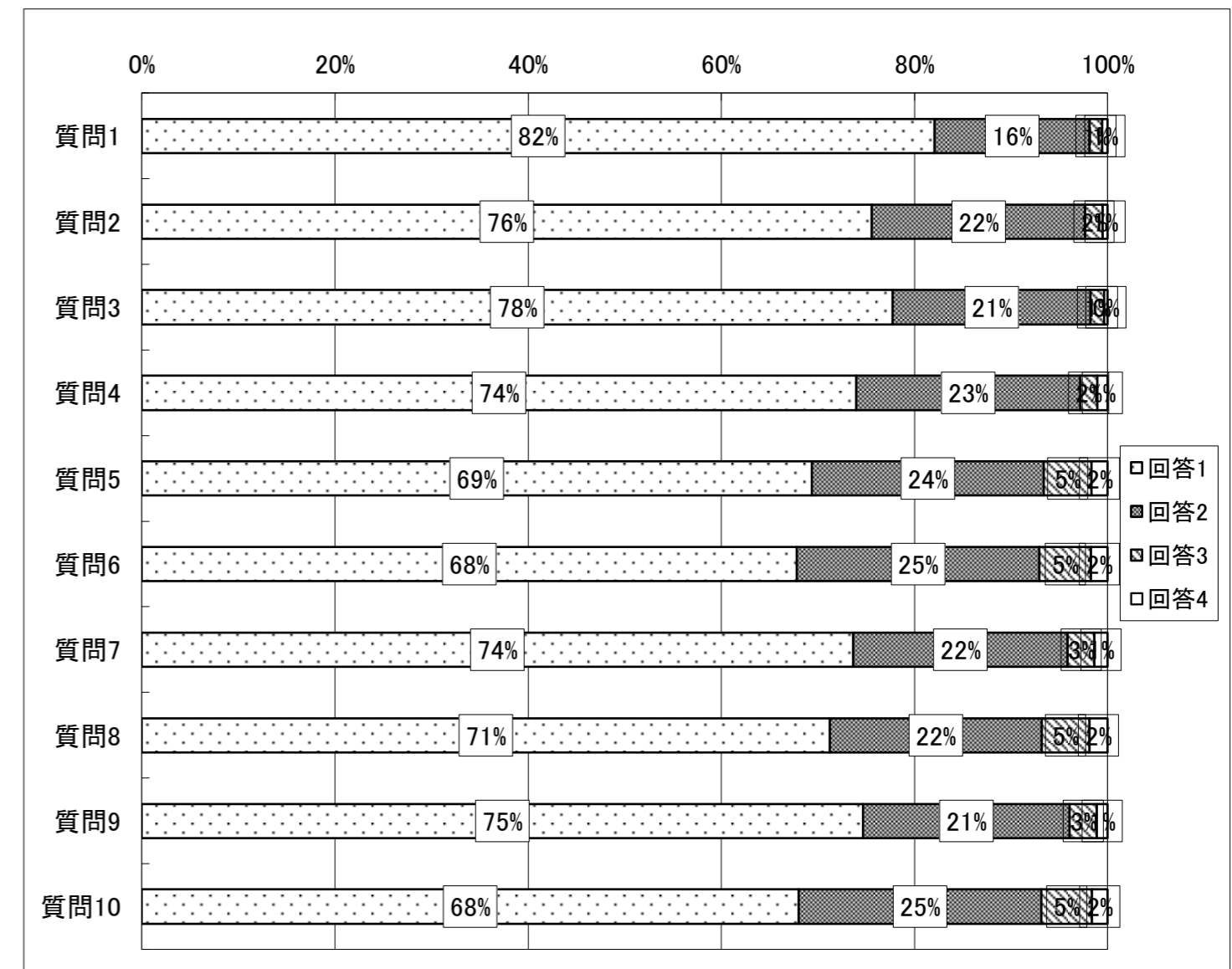
学科	鍼灸・柔道整復学科（学校全体）	学科
学年	全学年（1・2・3年）	年
部/組	全組	組
授業科目	全科目	

回答番号	1	よく当てはまる。
	2	ほぼ当てはまる。
	3	あまり当てはまらない。
	4	ぜんぜん当てはまらない。

質問	質問内容	回答				
		1	2	3	4	無回答
1	自分は授業に遅刻や欠席をしないように努めた。	4572	894	72	31	0
2	自分は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	4211	1230	99	29	0
3	自分は授業を受ける際に、きちんとマナーを守っている。（携帯電話の操作、飲食、途中入室、私語、居眠り等をしていない。）	4330	1142	78	19	0
4	授業はシラバスの通り、計画に従って実施された。	4120	1291	98	60	0
5	教材やプリントを用いるなど、学生が興味・関心をもてるように工夫された授業である。	3864	1338	274	93	0
6	授業の量・速度・レベルは適切である。	3778	1398	299	94	0
7	教員は学生の質問や意見に対し、丁寧で適切な対応をしていた。	4102	1237	155	75	0
8	教員は学生が理解できるよう、わかりやすく授業を進めていた。	3969	1220	275	105	0
9	教員の話し方、言葉遣いは適切である。	4160	1191	156	62	0
10	授業で「わかった」、「できた」と思うことがある。	3788	1400	291	90	0

学生個人としての授業への出席状況や学習への取り組み姿勢については、「よく当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答した学生が、他の項目と比較して多い結果となった。このことから、学生に対して、一回一回の授業を大切に、主体的に学習へ取り組む意識付けが一定程度図られていることがうかがえる。また、これは本校のアドミッションポリシーに掲げられている「学業に対して意欲的・自主的に学ぶことのできる学生」の育成を意識した教育活動が、着実に実践されている成果の一つであると考えられる。特に、「授業への出席・欠席」に関する項目においては、「よく当てはまる」と回答した学生の割合が全質問項目の中で最も高く、学生が学則に基づき、出席を重視しながら授業に臨んでいる様子が確認できた。一方で、改善点として、授業内容に関する質問項目では、「ぜんぜん当てはまらない」と回答した学生が一定数見受けられた。学生の学習姿勢に関する結果との比較から、学生自身は意欲的に努力しているものの、「授業内容を十分に理解できていない」と感じている学生が存在している可能性が示唆される。そのため、学習意欲は高い一方で授業理解に困難を抱える学生を早期に把握し、個別支援や学習フォロー体制のさらなる充実を図ることが、今後の重要な課題であると考えられる。

教務部長：錦織 輝礼



令和7年度 授業評価アンケート通年集計結果（柔道整復学科）

学科	柔道整復学科（全体）	学科
学年	全学年（1・2・3年）	年
部/組	全組	組
授業科目	全科目	

回答番号	1	よく当てはまる。
	2	ほぼ当てはまる。
	3	あまり当てはまらない。
	4	ぜんぜん当てはまらない。

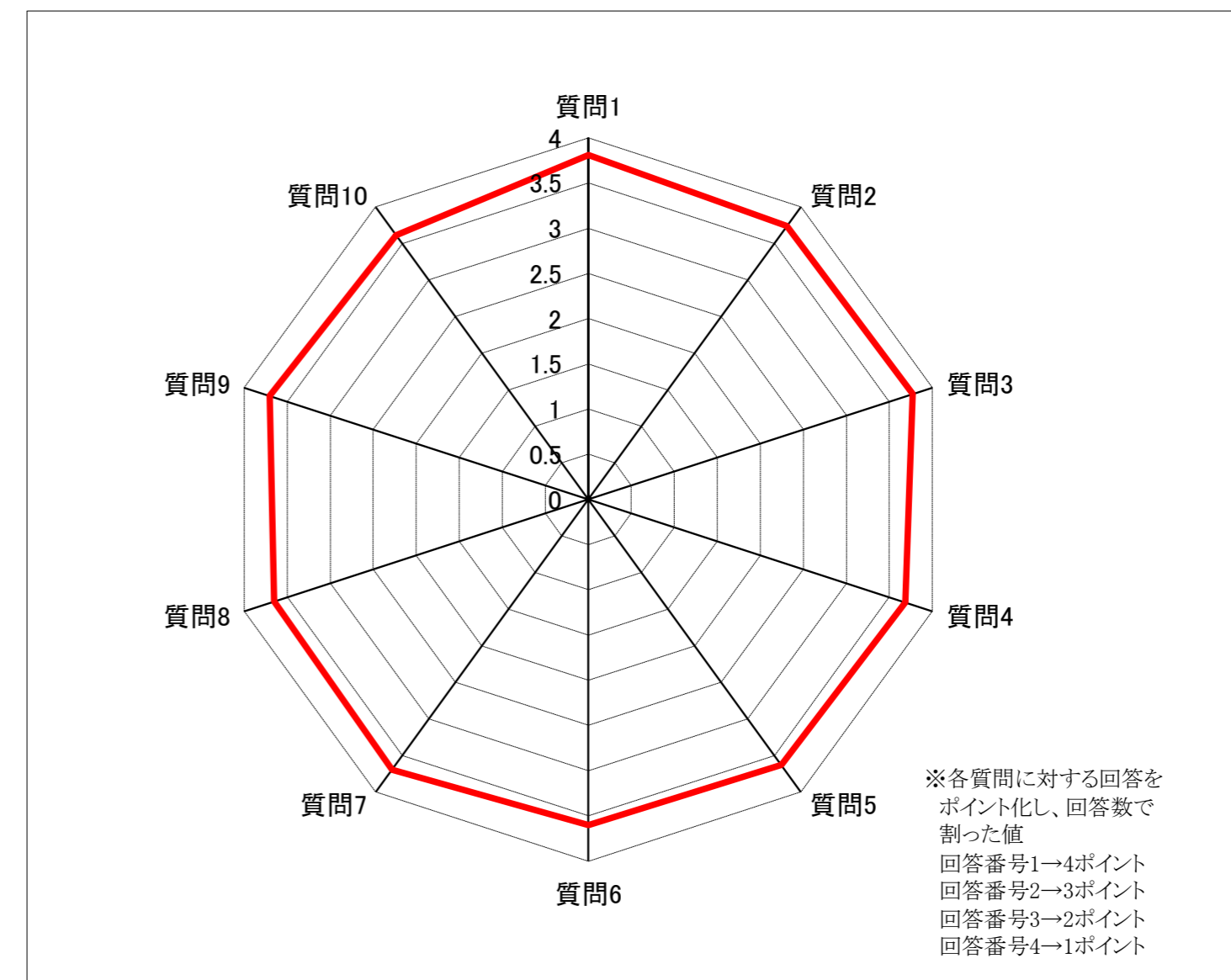
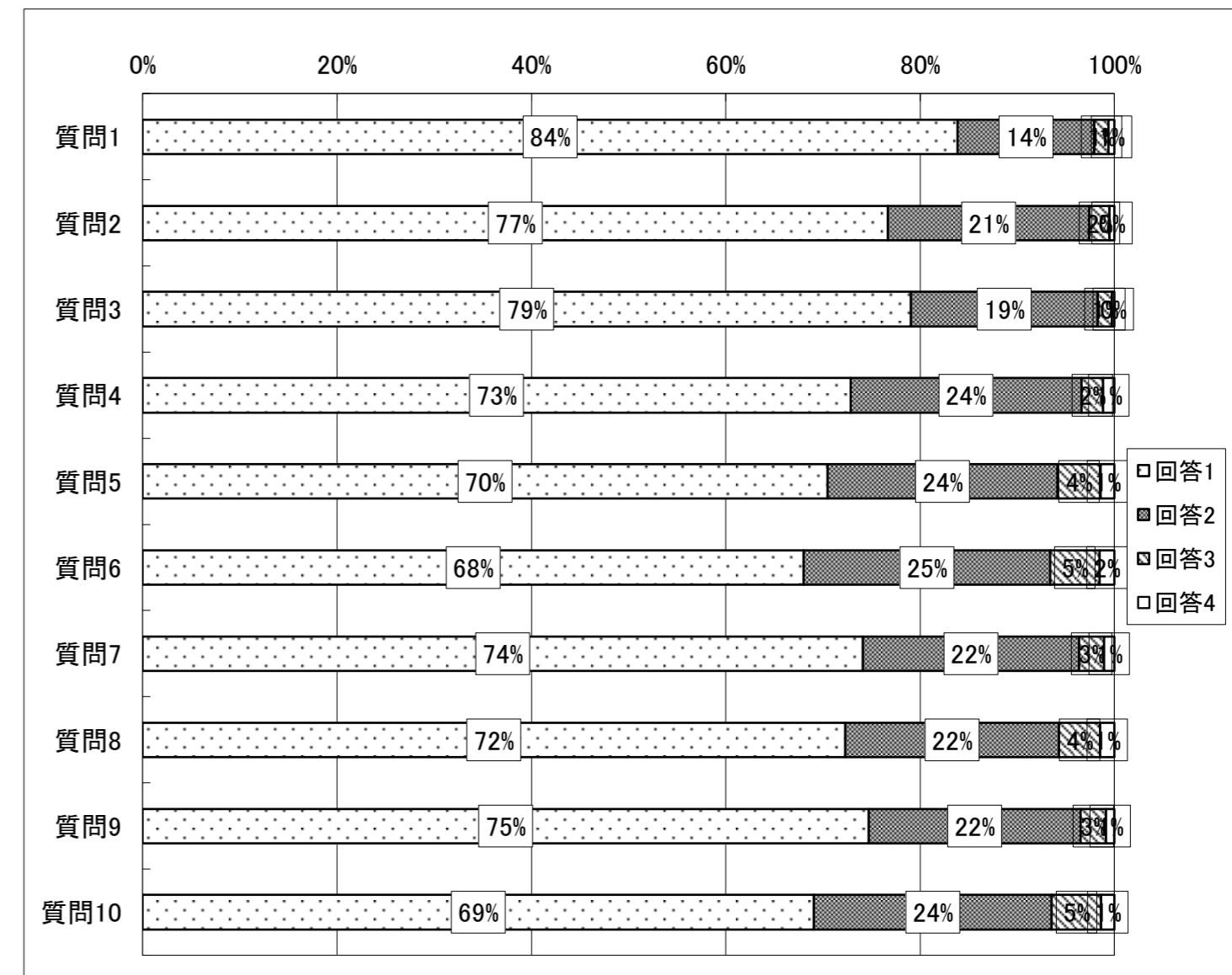
質問	質問内容	回答				
		1	2	3	4	無回答
1	自分は授業に遅刻や欠席をしないように努めた。	3306	554	58	23	0
2	自分は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	3023	816	83	19	0
3	自分は授業を受ける際に、きちんとマナーを守っている。（携帯電話の操作、飲食、途中入室、私語、居眠り等をしていない。）	3116	757	59	9	0
4	授業はシラバスの通り、計画に従って実施された。	2871	936	89	45	0
5	教材やプリントを用いるなど、学生が興味・関心をもてるように工夫された授業である。	2778	932	175	56	0
6	授業の量・速度・レベルは適切である。	2682	998	201	60	0
7	教員は学生の質問や意見に対し、丁寧で適切な対応をしていた。	2921	877	101	42	0
8	教員は学生が理解できるよう、わかりやすく授業を進めていた。	2849	868	166	58	0
9	教員の話し方、言葉遣いは適切である。	2945	859	103	34	0
10	授業で「わかった」、「できた」と思うことがある。	2723	964	201	53	0

全体として、レーダーチャートは円に近いバランスの取れた形状となっており、授業運営・学生対応・学習理解の各項目において、大きな偏りのない安定した評価が得られていることが確認できる。特に、質問1～3の「学生自身の授業への取り組み」に関する項目では高い評価が見られ、学生の学習姿勢や授業規律が良好に維持されていることが確認できた。これらは、教員による日頃の指導や学年運営の成果が反映された結果であると考えられる。

また、質問7～9の「教員の対応」「授業のわかりやすさ」「話し方・説明」に関する項目についても安定した評価が得られており、学生との信頼関係を重視した丁寧な授業運営が実践できていることがうかがえる。一方で、質問5・6・10の「授業への興味・関心」「授業レベル」「理解できた・できるようになったという実感」に関する項目については、他項目と比較すると、さらなる向上の余地がみられる結果となった。

今後は、臨床現場との関連性をより意識した授業展開を充実させるとともに、学生が学習内容を実践的に活用できるよう教育内容の工夫を進めていく必要がある。「理解できる授業」から「実践的に活用できる授業」へと発展させ、より高い学習効果につながる授業の提供を目指していくことを課題としたい。

柔道整復学科 学科長：小澤 健史

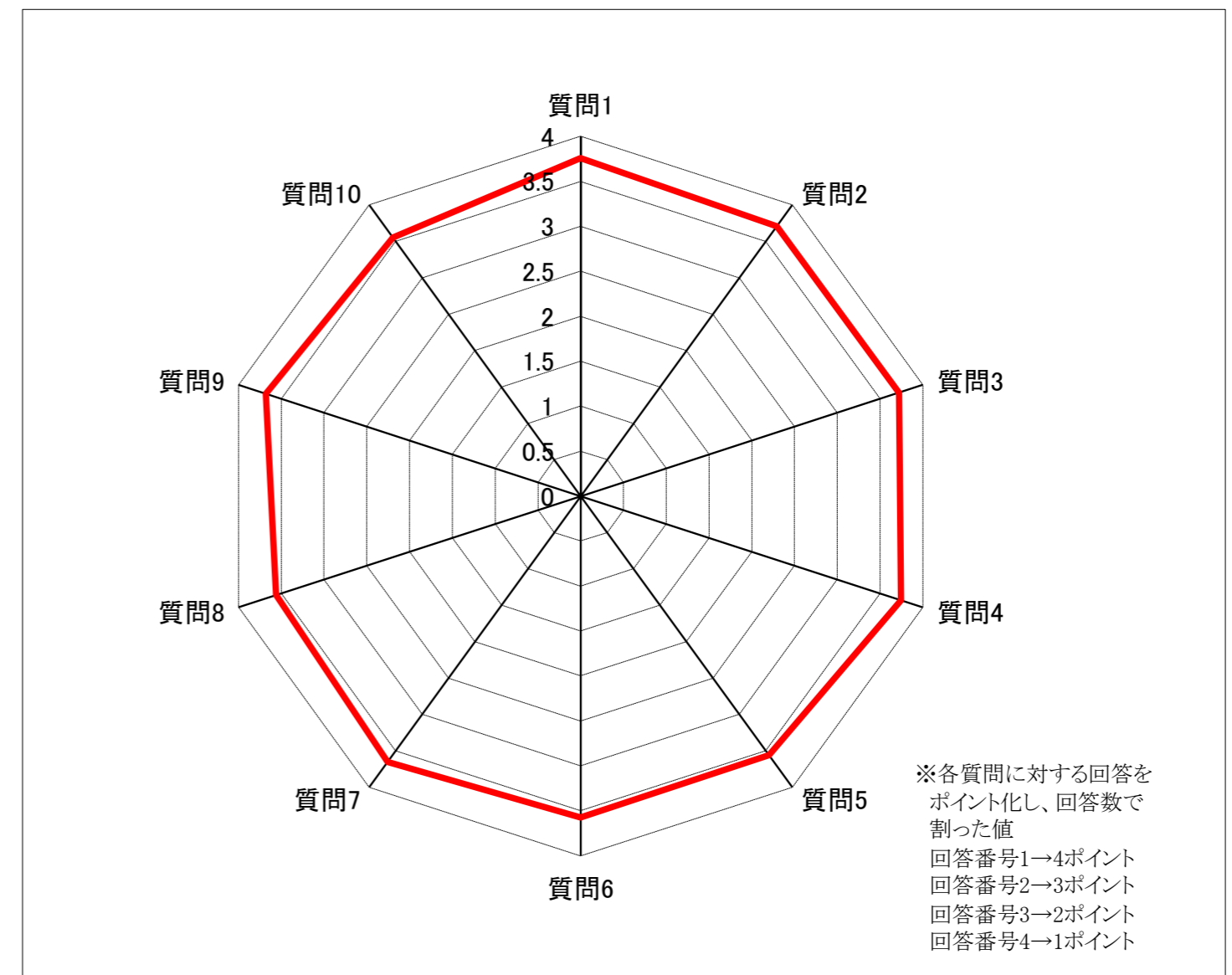
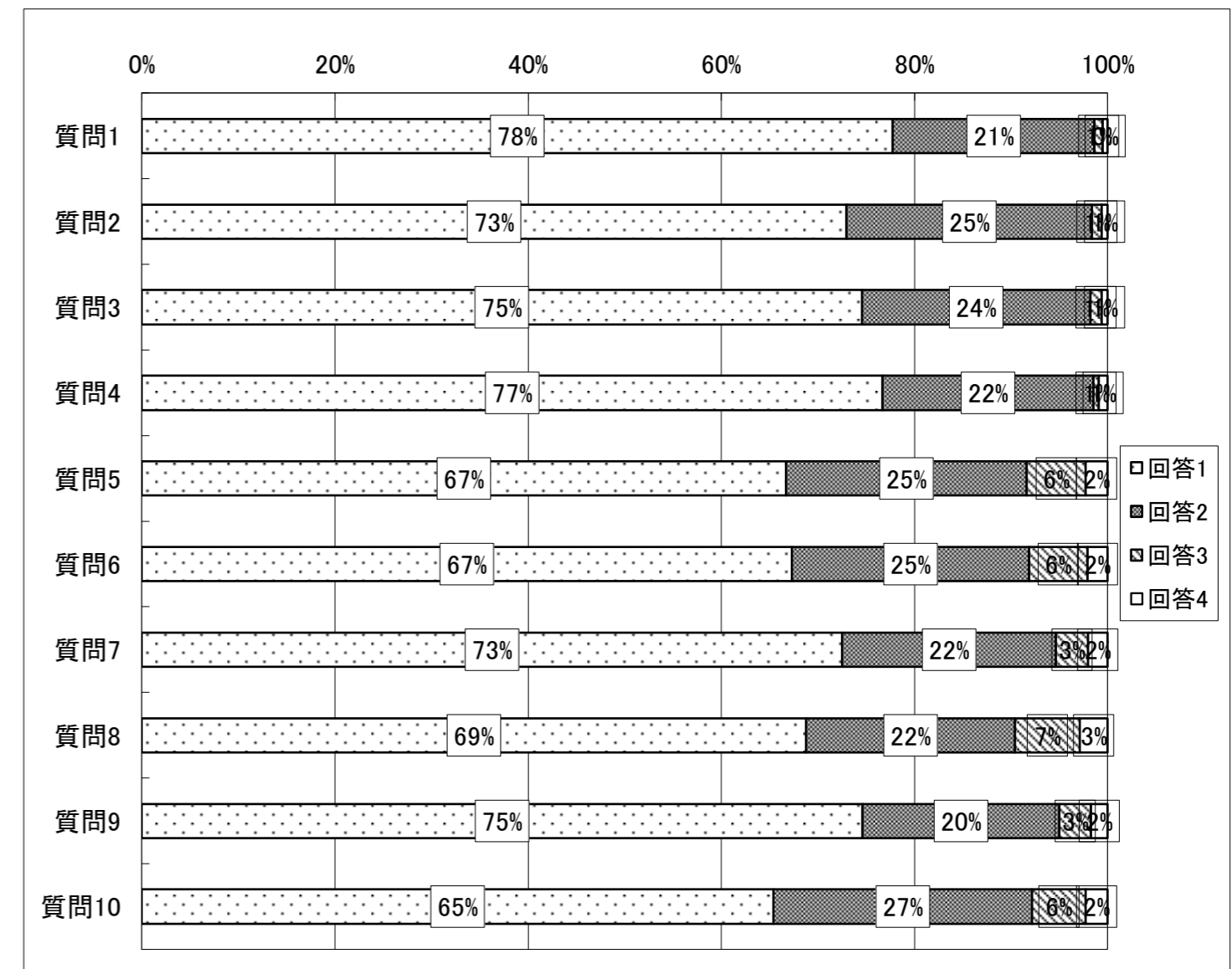


令和7年度 授業評価アンケート通年集計結果（鍼灸学科）

学科	鍼灸学科（全体）	学科
学年	全学年（1・2・3年）	年
部/組	全組	組
授業科目	全科目	

回答番号	1	よく当てはまる。
	2	ほぼ当てはまる。
	3	あまり当てはまらない。
	4	ぜんぜん当てはまらない。

質問	質問内容	回答				
		1	2	3	4	無回答
1	自分は授業に遅刻や欠席をしないように努めた。	1266	340	14	8	0
2	自分は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	1188	414	16	10	0
3	自分は授業を受ける際に、きちんとマナーを守っている。（携帯電話の操作、飲食、途中入室、私語、居眠り等をしていない。）	1214	385	19	10	0
4	授業はシラバスの通り、計画に従って実施された。	1249	355	9	15	0
5	教材やプリントを用いるなど、学生が興味・関心をもてるように工夫された授業である。	1086	406	99	37	0
6	授業の量・速度・レベルは適切である。	1096	400	98	34	0
7	教員は学生の質問や意見に対し、丁寧で適切な対応をしていた。	1181	360	54	33	0
8	教員は学生が理解できるよう、わかりやすく授業を進めていた。	1120	352	109	47	0
9	教員の話し方、言葉遣いは適切である。	1215	332	53	28	0
10	授業で「わかった」、「できた」と思うことがある。	1065	436	90	37	0



例年のレーダーチャートにおいても全体としては円に近い傾向が見られていたが、今回はこれまで以上に均整の取れた形状となっており、各項目における評価のバランスがさらに向上していることが確認できた。この結果は、学科として入学前の募集段階から本校のアドミッションポリシーに基づいた訴求を行うとともに、入学後においても学生への丁寧な声掛けや一貫した運営方針のもとで教育活動を継続してきた成果が、徐々に表れてきているものと考えられる。

一方で、質問5「教材の工夫・学生の興味喚起」、質問6「授業の量・速度・レベル」、質問8「理解しやすい授業展開」、質問10「理解できた・できるようになったという実感」に関する項目については、他項目と比較するとやや低い傾向が見られ、さらなる改善の必要性が示唆される結果となった。これらの項目については、授業内容や教育手法の工夫だけでなく、学生自身の学習姿勢や学習への主体性も一定程度影響している可能性があると考えられる。特に、受動的な学習態度が強い場合には、「理解できた」「できるようになった」という実感や、授業への興味・関心の形成につながりにくい側面もあると感じている。そのため、今後は学生の自発的・能動的な学習意欲をさらに喚起できるよう、学生自身が将来の医療従事者として成長していく姿を具体的にイメージできる教育活動の充実が重要であると考えられる。具体的には、「体験を通じて成長を実感できる教育」や、教員自身の姿勢や実践を通して学生の憧れや目標意識を引き出す教育を意識しながら、授業改善に取り組んでいきたい。

鍼灸学科 学科長：竹村 千冬